

工学部創立100周年記念事業

100周年記念施設の建設と募金のお願い

応用物理 S55 年卒業 工学部長／工業会顧問 **福井 一俊**

福井大学工学部は前身である福井高等工業学校設立から数えて、2023年12月で100年を迎えます。

1923年に福井高等工業学校が設置され、1944年の福井工業専門学校への改称を経て、1949年に福井大学工学部がスタートしました。1965年には大学院工学研究科修士課程、1993年には同博士後期課程が設置されます。その後、2003年の大学統合で福井医科大学と統合した新生福井大学が誕生し、2004年には国立大学法人福井大学が発足し現在に至っています。

福井大学工学部は、機械、電気・電子、情報、知能、建築・建設、化学・生物、物理、繊維、原子力など工学系を網羅する分野での教育・研究に精進してまいりました。その実績は、就職率全国1位を13年連続で獲得していること、低い離職率などに反映されており、社会からの評価も高いと自負しているところであります。

日本海側で最大規模の工学部が100周年を迎えるにあたって相応しい事業を行うべく、工学部と工業会は、100周年記念事業委員会と、その下部組織として募金部会、百年史編纂部会、モニュメント事業部会ならびに式典部会を組織し、以下に示すような内容の100周年記念事業を計画しております。

福井大学工学部 100周年記念事業

- 1) 福井大学工学部創立100周年記念事業募金
- 2) 100周年記念施設の建設
- 3) 100周年記念式典の開催
- 4) 福井大学工学部百年史の発行
- 5) 100周年記念工業会誌の発行

上記1)の100周年記念事業募金は、卒業生、本学教職員、企業等から寄附を頂き、工学部の支援を行うという目的で基金化して積み立て、100周年記念施設の建設費や百年史の発行費用、貧困学生の支援、留学支援、工学部教員の教育・研究支援ならびに成果の実用化・起業化への支援等に充当しようとするものです。

2)の100周年記念施設の建設については、数年前から検討を重ね、2018年度からは、建築建設工学講座教員の協力を得て、建築・環境都市工学科の3年次生を対象に、学内の施設整備などについて、「100周年事業記念コンペ」を実施し、プレゼンテーションと審査を行ってきました。優秀者には工学部長賞や工業



図ー1 100周年記念施設の西側からのイメージパース

会理事長賞を贈る表彰も行い、機運を高めております。

3) の記念式典は記念シンポジウムとともに2024年に挙げる予定ですので、工業会会員の皆様の参加を広くお待ちしております。

4) の百年史はその編纂に向け、工学部12名と、工業会3名からなる編纂部会が、福井大学工学部五十年史や福井大学五十年史を参考にしながら、編集作業を進めております。

5) の100周年記念工業会誌では工学部100年の歴史をビジュアルにお伝えしたいと存じております。

◆ 計画中の100周年記念施設(案) ◆

他大学の記念施設の調査、ならびに3年間のコンペを通し、学生の要望や提案を収集し、つぎのような記念施設計画の基本方針を固めて参りました。すなわち、在学生・教員のみならず、工業会会員や地域にも開か

れた施設であること、利用率が高く維持コストがかからないこと、学生の自己学習、データサイエンス教育や課題探求・解決力の不可欠な実践活動に利用できること、共同研究の打ち合わせや研究成果の発表、環境に優しい省エネ機能などを取り入れていくなどの基本方針を固め、基本計画の検討段階に入っております。図-1は工学部2号館(機械工学科棟)の南に建設する100周年記念施設の外觀イメージパース、図-2は建設予定位置、図-3はホール機能とプレゼンテーション機能を強化した223L講義室(旧共大5教室)、図-4は多目的に活用される100周年ホール(仮称)のイメージパースです。

計画を実現するにあたっての基本方針は、文部科学省の予算で改修する工学部2号館(機械工学科棟)の南側の講義室棟の改修と、寄附金で建設する100周年記念施設の一体整備による、教育環境の改善と、「イ



図-2 100周年記念施設建設予定地



図-3 223L 講義室(プレゼンテーションホール)

ノベーションコモン」と「学びの母港」としての機能強化の実現にあります。イノベーションコモンとは、学内外を問わない多様な人材が、協働で新しい価値を創造・展開し、豊かな地域・社会の実現に資するための共創の拠点です。また学びの母港とは、卒業生や地域の皆さんのリカレント・キャリアアップ・生涯学習のよりどころを意味しています。

講義室棟は、1968年建設の老朽棟であり、階段大教室である223 L 講義室(旧共大5)へのホール機能の付加、中講義室の211 M(旧共中4)ならびに224 M講義室(旧共中5)の実践プロジェクトベースドラニング(実践的学び)への対応力の強化、およびエクセルルームのデータサイエンス教育機能の強化を計画しています。

新築する100周年記念施設1階には、多目的に活用できる100周年ホール(仮称)、学生の自習スペース、休憩・雑談ができるイートエリア、共同研究等の打ち合わせスペース、実践的学習やグループワークを行うワークショップエリア等を設けます。2階には、プレゼンテーションホール(223L講義室)につなげるホワイエ機能、工業会会員・共同研究者等のラウンジ機能、産学連携研究のためのオープンオフィス、本学の研究・教育・社会貢献活動の成果の発信・展示を行うギャラリー、学生の社会連携やサークル活動などの実践活動を応援する100周年ギャラリーなどを配置する予定です。設備面では、本学が開発した地中熱を利用した空調システムや、CLT(直交集成木材)の導入も視野に入れ、低負荷で環境にやさしい建築を目指します。



図-4 100周年ホール(仮称)

募金のお願い

日本海側で最大級の規模を持つ福井大学工学部のシンボルとして、また卒業生の皆様の学びの母港として相応しい100周年記念施設を建設するため、工学部・工業会は一体となって推進したいと存じますが、皆様のご協力、募金なしで実現することは不可能でございます。勝手ながら、100周年記念事業の募金趣意書ならびに専用の振込用紙を本誌に同封させていただきました。優れた学生の育成と、研究・活動成果の還元を通して、地域・社会の持続的発展に貢献する母校のため、募金へのご協力のほどよろしく申し上げます。

信州大学、山形大学の100周年記念事業では、卒業生や新旧教員などから多額の寄附金を集め、大学敷地内に記念会館を建設するなど、実績をしっかりと残されています。同様に金沢大学では2021年、静岡大学は2022年、また新潟大学は2023年にそれぞれ100周年を迎えます。これらの3大学ではすでに同窓会誌に記念事業の案内を掲載し、寄附金の募集を呼び掛けております。なお新潟大学および静岡大学の寄附金目標額はそれぞれ3億円および10億円となっています。工学部教員は本年度から募金を開始しています。工業会は、現在の貯えから100周年記念事業に対する寄附の積立を、本年度から開始することを計画しております。工学部・工業会は今後4年間、会員の皆様に記念事業への寄附をお願いすることになると存じますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

18歳人口が減少し、大学の統廃合も進められる中、さらなる100年も色あせない福井大学工学部・大学院工学研究科としていきたいと存じますので、皆様のお力添えを重ねてお願いいたします。

末筆になりましたが、コロナ禍の速やかな収束と、皆々様の安寧をお祈り申し上げます。